

仙台市地震防災アドバイザー室へようこそ!



いつもご覧いただきありがとうございます。
今回の更新で21回目となりました。
100万人の防災!地震対策は今日(京)から始めましょう!

■近づいています。

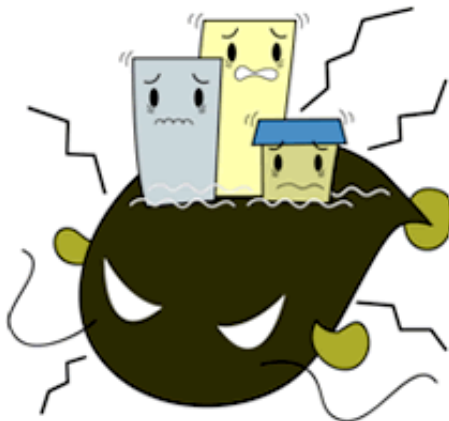
平成19年1月31日掲載

平成19年1月10日、宮城県沖地震の発生確率の経年による修正値が発表されました。

	10年以内	20年以内	30年以内	経過率
2007. 1. 1現在	60%程度	90%程度	99%	0.77

(経過率: 前回の地震発生以降経過した時間の平均活動間隔に対する割合 平均活動間隔: 37.1年)

「確率」と聞いて、いの一番に「ぴーん!」とくるのは降水確率ではありませんか。朝のニュースで「今日の降水確率は60%です。」と言われたなら「傘を持って出かけようかな。」、帰ってくるまで降らなかったら「よかったー。」というあの数字です。あの数字は、「過去に同じ気圧配置だったときに雨が降った割合」ですので、「今日は降った」「今日は降らなかった」ということがでてくるのです。



しかし、**宮城県沖地震の発生確率の数字は違います。**

「宮城県沖地震は、いずれは発生するのです。」10年経過して発生しなかったら、「今回の宮城県沖地震は発生しなかった。」という確率ではないのです。

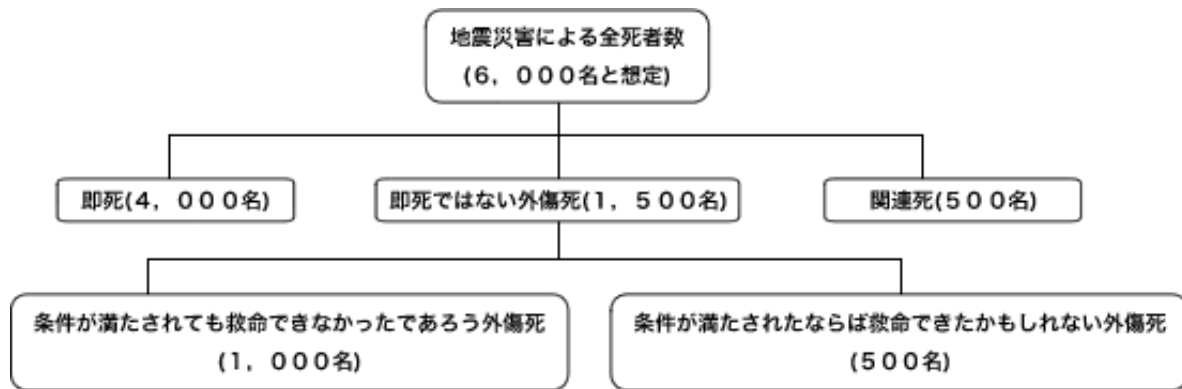
極論すると、今後10年間は毎日60%の確率で「地震が発生するかもしれない。」という数字です。今回の値は前回の地震(昭和53年)からの時間が経過したために修正されたものです。今後も発生するまで、より高い数値に修正されていきます。最初に長期評価が発表された6年前の2001年時点での10年以内の発生確率は26%でした。

地震が近づいてきているのを感じませんか?

先日、新聞に2005年に世界で発生した自然災害・大事故の件数が744件、死者が99,425人、被災者が約1億6千万人であったという記事が載っていました。2005年には、パキスタン大地震やハリケーン(カトリーナ)等が発生しました。覚えていらっしゃるでしょうか?世界の人口を約65億人とすると、1年間で全人口の0.002%の方が災害によって命を奪われ、2.4%の方が被災されたのです。これは多い数字なのでしょうか?少ない数字なのでしょうか?



また、1995年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」による死者の内訳を金沢医科大学の和藤教授が次のように模式図として図示しています。



金沢医科大学 和藤教授による模式図

被害の大部分を占めた神戸市の当時の人口は約200万人で、死亡者は約4,500人でした。現在の仙台市の人口は、約100万人です。
もし、仙台市で「阪神・淡路大震災」のような地震が発生したら.....

少しでも数値が低い今のうちに、地震対策を進めて宮城県沖地震を乗り切りましょう！

地震対策はできることから、きょう(京)から始めましょう。